

(提案1)

日本学術会議分野別委員会及び分科会等について（平成20年10月23日日本学術会議第67回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
(略) Ⅱ 分野別委員会及び分科会等の組織について (略) 2. 分科会 分野別委員会には、幹事会が定める手続きを経て、分科会及び分科会の下に小委員会を置くことができます（注6）。分科会の委員には、その分科会が置かれる委員会の委員以外の会員又は連携会員を含めることができます。 分野別委員会は、分科会で議決したことを委員会での議決とすることを決定できます（注7）。ただし、Ⅴで述べる<u>勧告・要望・声明・回答</u>に関しては、必ず委員会での審議が必要です。 （注6） 委員会の分科会等の設置提案をする際に用いる付属様式等について・・・（別紙2） （注7） 会則第27条第2項に基づく委員会決定・・・（別紙3） (略)	(略) Ⅱ 分野別委員会及び分科会等の組織について (略) 2. 分科会 分野別委員会には、幹事会が定める手続きを経て、分科会及び分科会の下に小委員会を置くことができます（注6）。分科会の委員には、その分科会が置かれる委員会の委員以外の会員又は連携会員を含めることができます。 分野別委員会は、分科会で議決したことを委員会での議決とすることを決定できます（注7）。ただし、Ⅴで述べる<u>提言及び報告等</u>に関しては、必ず委員会での審議が必要です。 （注6） 委員会の分科会等の設置提案をする際に用いる付属様式等について・・・（別紙2） （注7） 会則第27条第2項に基づく委員会決定・・・（別紙3） (略)

(別紙3) 平成 年 月 日 〇〇委員会決定 (案) 日本学術会議会則第27条第2項に基づく委員会決定 日本学術会議会則第27条第2項に基づき、当委員会に設置される分科会の議決は、当委員会の議決とする。 (参考) 日本学術会議会則 (抄) 第27条 2 委員会は、その定めるところにより、分科会の議決をもって委員会の議決とすることができる。ただし、法第4条の諮問に対する答申及び法第5条の勧告並びに第2条に規定する意思の表出<u>(提言及び報告を除く。)</u>に関してはこの限りでない。 (略)	(別紙3) 平成 年 月 日 〇〇委員会決定 (案) 日本学術会議会則第27条第2項に基づく委員会決定 日本学術会議会則第27条第2項に基づき、当委員会に設置される分科会の議決は、当委員会の議決とする。 (参考) 日本学術会議会則 (抄) 第27条 2 委員会は、その定めるところにより、分科会の議決をもって委員会の議決とすることができる。ただし、法第4条の諮問に対する答申及び法第5条の勧告並びに第2条に規定する意思の表出に関してはこの限りでない。 (略)
--	---

附 則

この決定は、日本学術会議会則の一部を改正する規則の施行の日から施行する。

(提案2)

分野別委員会運営要綱(平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
環境学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	環境学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	環境学委員会環境政策・環境計画分科会	(略)	(略)			環境学委員会環境政策・環境計画分科会	(略)	(略)	
	環境学委員会環境政策・環境計画分科会フューチャー・デザイン小委員会	1. フューチャー・デザインという考え方に立った、現在の社会を形作る体制(市場、民主主義等)並びに日本及び世界の社会のあり方についての分析及び検討 2. 上記についての提言(報告)の作成に係る審議に関すること	10名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者	時限設置: 平成28年 月4月14日 ～平成29 年9月30日	(新規設置)				
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

環境学委員会環境政策・環境計画分科会小委員会の設置について

分科会等名：フューチャー・デザイン小委員会

1	所属委員会名	環境学委員会
2	委員の構成	10 名以内の会員，連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	長い期間を見通して立案すべき環境政策・環境計画の検討にあたっては、まず我々はどのような社会を構築していくべきかを問わねばならない。その際、現在世代間の公平性ととも将来世代と現在世代の世代間の公平性の確保が必要不可欠である。 現在の政策が将来の社会を形成するという前提の下で、現在の政策立案に将来世代の声をいかに反映させるかについてフューチャー・デザインという考え方に立ち、現在の社会を形作る体制（市場、民主主義等）並びに日本及び世界の社会のあり方を問い、提言（報告）の作成につなげる。
4	審議事項	上記の目的にそって、フューチャー・デザインの考え方・方向性について審議を行う。なお、平成 29 年 3 月を目途に提言（報告）の素案を作成することを目指す。
5	設置期間	期限設置 平成 28 年 4 月 14 日～平成 29 年 9 月 30 日 常設
6	備考	※新規設置

(提案3)

平成28年度各地区会議事業計画（案）

平成28年4月

地区会議名	事業名	開催時期・場所	地区会議事務局
北海道	- 第1回地区会議運営協議会 - 第2回地区会議運営協議会 - 第3回地区会議運営協議会 - 学術講演会及び科学者との懇談会 - サイエンスカフェ - 地区会議ニュースの発行（No. 47）	平成28年 4月～5月（北海道大学） 未定（北海道大学） 未定（北海道大学） 未定（北海道大学） 未定（三省堂書店札幌店） 平成29年 3月	北海道大学 （研究推進部）
東北	- 学術講演会及び科学者との懇談会 - 地区会議運営協議会 - 地区会議ニュースの発行（No. 31）	平成28年 11月～12月（山形大学） 平成29年 1月 3月	東北大学 （研究推進部）
中部	- 第1回地区会議運営協議会及び学術講演会 - 地区会議ニュースの発行（No. 141） - 第2回地区会議運営協議会及び学術講演会 - 地区会議ニュースの発行（No. 142）	平成28年 6月22日（金沢大学） 10月 11月（岐阜大学） 平成29年 2月	名古屋大学 （研究協力部）
近畿	- 学術講演会 - 市民公開シンポジウム （日本学術会議農学委員会・食料科学委員会主催） - 地区会議運営協議会及び学術文化懇談会 - 地区会議ニュースの発行（No. 26）	平成28年 未定（1～2回開催予定） 8月6日（京都大学東一条館） 平成29年 2月～3月（京都大学） 3月	京都大学 （研究国際部）
中国・四国	- 第1回地区会議運営協議会 - 第2回地区会議運営協議会及び学術講演会 - 第3回地区会議運営協議会 - 地区会議ニュースの発行（No. 48）	平成28年 4月28日 （広島大学霞キャンパス） 10月8日（岡山大学金光記念館） 12月（広島大学霞キャンパス） 平成29年 3月	広島大学 （学術・社会産学連携室）
九州・沖縄	- 第1回地区会議運営協議会（書面回議） - 第1回科学者との懇談会及び学術講演会 - 第2回地区会議運営協議会（書面回議） - 地区会議ニュースの発行（No. 115） - 第2回科学者との懇談会及び学術講演会	平成28年 5月 7月22日（宮崎市内中心市街地） 平成29年 3月 3月 平成28年度下半期（沖縄県内）	九州大学 （企画部）

(提案 4)

日本学術会議中部地区会議主催学術講演会「新学術創成への挑戦と取組」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議中部地区会議

2. 共 催：金沢大学

3. 日 時：平成 28 年 6 月 22 日（水）13:00～16:00

4. 場 所：金沢大学角間キャンパス（金沢市角間町）

5. 開催趣旨：

金沢大学は平成 27 年 4 月に「新学術創成研究機構」を新たに設置し、金沢大学に優位性のある研究の更なる強化、分野融合型研究の進展と国際頭脳循環の確立を一体的に推し進めている。さらに、世界的研究拠点の形成をめざす「超然プロジェクト」により全学的な研究力強化を推進している。本講演会では、研究大学として革新的・学際的な研究に挑戦する金沢大学の取組について紹介する。

6. 次 第：

(1) 13:00～13:10 開会挨拶

山崎 光悦（金沢大学長）

(2) 13:10～13:20 主催者挨拶

高橋 雅英（日本学術会議第二部会員・中部地区会議代表幹事、名古屋大学大学院医学系研究科教授）

(3) 13:20～13:30 科学者との懇談会活動報告

丹生 潔（中部地区科学者懇談会幹事長、名古屋大学名誉教授）

(4) 13:30～16:00 学術講演会 テーマ『新学術創成への挑戦と取組』

・演題未定

花木 啓祐（日本学術会議第三部会員・副会長、東京大学大学院工学系研究科教授）

・「中国稲作文明の起源を探る」

中村 慎一（金沢大学新学術創成研究機構長、金沢大学人間社会研究
域歴史言語文化学系教授）

- ・「世界最先端の顕微鏡技術で拓くナノサイエンス研究の新たな可能性」

福間 剛士（金沢大学理工研究域電子情報学系教授）

（５） 16:00 閉会挨拶

福森 義宏（金沢大学理事(企画評価・情報・社会貢献担当)、中部地
区科学者懇談会石川県幹事）

※上記登壇者の他に、中部地区会議関係者が１名登壇する予定

(提案5)

日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会「いのちを守る見事な仕組み」(仮題)の開催について

1. 主 催：日本学術会議九州・沖縄地区会議
2. 共 催：宮崎大学
3. 後 援：宮崎県、宮崎市、宮崎県教育委員会、宮崎市教育委員会、公益財団法人日本学術協力財団（予定）
4. 日 時：平成28年7月22日（金）14:00～16:10
5. 場 所：宮崎市内中心市街地の会場（予定）
（会場については、幹事会承認を得てから、調達を行うため、現時点では未定）
6. 開催趣旨：
生命科学をキーワードに研究を推進している宮崎大学における、いのちの始まりを守る周産期医療の取り組みや、体の本能的な機能の恒常性に関する研究など、「いのちを守る」ための様々な仕組みについて紹介する。
7. 次 第：
司会進行
古谷野 潔（日本学術会議第二部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学大学院歯学研究院教授）
(1)開会挨拶（14:00～14:10）
大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）（14:00～14:05）
池ノ上 克（宮崎大学学長）（14:05～14:10）
(2)講演（14:10～16:00）
・演題未定（14:10～15:00）
鮫島 浩（宮崎大学医学部教授）
・演題未定（15:10～16:00）

村上 昇（宮崎大学農学部教授）

(3) 閉会挨拶（16:00～16:10）

古谷野 潔（日本学術会議第二部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事、
九州大学大学院歯学研究院教授）

※上記登壇者の他に、九州・沖縄地区会議関係者が1名登壇する予定

提案6は別添なし。